

令和元年度 第2回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和元年11月1日（金） 9時55分から10時58分

場 所：江別市民会館 31号室

出席委員：澤井秀座長、田口智子座長代理、粕谷堅一郎委員、伊藤留美子委員、
龍田昌樹委員、小関堂寛委員、東條大輔委員、大鹿琢委員
菊地秀人委員（計9名）

オブザーバー：守山英男（石狩振興局地域創生部長）

欠席委員：吉田岳夫委員、浦野博之委員、腰原久郎委員（計3名）

事務局：企画政策部北川部長、西田次長、政策推進課中島参事、山口主任

傍聴者：2名

会議概要

1 開会

2 議事（1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について、事務局説明

○田口座長代理

資料2の5ページ、有給インターンシップ等地域就職支援事業の有給インターンシップに参加した大学生の人数は、平成30年度197人と記載されている。数字自体は上がっているが、参加者の属性として、同じ人が同じような形で参加している場合も考えられる。これは今回の様々な項目にも該当するものだと思うが、この有給インターンシップ等地域就職支援事業の参加者は増加傾向にあるのか。また、男女や職業の偏り、受入先や参加者が同じなど参加者の属性の枠組みはどうなっているのか。それにより、目標を達成しながらも検討しなければならない新たな課題が出てくると思う。

○事務局

平成28年度から平成29年度は参加学生数が横ばい傾向だったため、この事業に協力してくれる企業を増やすための営業に力を入れ、結果登録企業が増えたことにより平成29年度から平成30年度まで20名増加している。

今後の課題としては、市内大学の学生へのPRを強化することに加えて、江別市の企業に関心がある市外の大学生も対象とすることで、市内企業のインターンシップに参加する学生の数が増加していくように進めていく。

○澤井座長

最終年度には目標値を達成する可能性のある事業が多いが、難しい取組もいくつかある。目標の達成が難しい取組はその理由を考えなければならない。しかし、目標の設定時から4年から5年が経っており、世の中が変化している。その変化を見て、目標の達成が難しい事業について現在も取り組むべき事業なのか、目標値自体が妥当だったのかを考えなければならない。目標を達成出来なかった場合でもチャレンジした結果が重要である。来年度が最終年度になるので、検証する必要がある。

議事（２）第２期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、事務局説明

○田口座長代理

人を育てること、次世代につないでいくことはどの時代においても人がテーマになる。

資料２の１４ページ、特定健康診査等事業費の国保特定健診受診率は平成２９年の結果が２８．６％であり、健康都市えべつとしてスポーツや健康を今後促進していくことも記載されている。全体的な健康のまちづくりに対しては江別市のみで対応出来ない部分があると思うが、産学官でどのような取組が想定されるか。

○事務局

これは検診未受診の方に受診勧奨する取組である。５０％という目標値に対して２８．６％という結果だが、意識に訴えかけるものなので、浸透しづらく成果に直結しない面がある。

江別市では野菜摂取を促進しており、市内の食品小売店や飲食店と協力して市民の野菜摂取量を増やすという市民運動を展開している。長野県で行っている塩分の摂取を控える取組など他自治体の事例を参考にしながら市民の健康に対する意識を高めることが中心的な取組になると考えている。

○田口座長代理

資料３に第２期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）の中に有給インターンシップの取組が記載されているが、有給で行い続けることは限界が出てくる。各大学や高校など各機関で行っており、経済界でも人材育成や産学連携という形で様々な試みをされている。この事業については、江別市が関わらなければ継続することや社会の仕組みに取りこむことは難しいので、様々な形を取り入れた新たな試みを検討していただきたい。

○事務局

有給インターンシップについては、市内学生のＰＲの他に企業の改革を行い、拡大を進めている。学生にとっても有意義なものとなり、また、地域の定着につながる仕組みを第２期に向けて検討していきたい。

○伊藤委員

先程の野菜摂取の取組について、具体的な案はあるのか。

○事務局

市内イベントでコーナーを設けて野菜を使った料理のレシピなどを利用して野菜摂取の啓発をしているほか、市内飲食店で野菜を使った料理の提供や野菜の販売所に協力をしていただき、市民の野菜摂取拡大につながるＰＲをしている。

○龍田委員

資料３の２ページ、「５ 第２期総合戦略の策定スケジュール」の９月と１０月の欄に懇談会と座談会が合わせて３回実施したと記載されている。国から出てくる骨子を元にして計画の策定を行う場合、学生や一般市民からは役所が作った他人事の計画になりがちだが、懇談会などを開催し、市民意見を聴取する機会は非常に重要である。この懇談会と座談会で出た結果や意見を聞きたい。

次に、ＳＤＧｓは世界的に取り組んでいかなければならない問題である。持続可能な社会を実現していくという点においては共通認識を持っていると思うが、その過程を経て、第２

期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を検討していただきたい。

○事務局

1点目、子育て世帯と大学生を対象に行った9月の懇談会について、江別市は平成28年から社会増が続いており、今後も子育て世帯の転入を促進させていきたいと考えているので、子育て世帯の保護者を対象に意見を聞いた。また、学生が大学卒業後も転出せずに定着していただきたいので、どのようなことを改善すると地域に定着するか意見を聞いた。

子育て世帯の保護者からは江別市の住環境を評価していただいております、特に公園や近くに原始林などの緑もあることが子育てには良い環境だという意見が出た。また、保育施設の関係では、札幌市は待機児童などの問題もあるが、江別市は保育施設に入りやすく、充実していると評価された。

大学生が卒業後も江別市に定着することについては、大学生は就職先によって定住する場所も決めることが多い。しかし、江別市内の企業に関する情報が足りないので、情報提供を活発にしてほしいという要望があった。さらに、地域に定着するには人と人のつながりが欲しいという意見が出ており、在学中に地域住民と学生が交流する機会を提供すると地域に愛着が沸き定住につながるという意見が出た。

10月には20代の若手職員を対象にした座談会を行い、シティプロモートや学生の地域定着については柔軟なアイデアが出ていた。大学生などの若い世代は江別市について知る機会があまりないので、江別市を知ってもらう取組が必要だという意見が出た。大学生を対象にする場合は、大学に行き、PRを行う。具体的な例として、札幌学院大学や北翔大学のバス停でバスの待ち時間を使って江別市をPRすることは出来ないかという意見も出ていた。

子育て世帯に対しての情報提供はアプリなどによって改善されたが、さらにPR出来ることはないかという意見が出ていたので、これも第2期の総合戦略に取り込みたいと考えている。

2点目のSDGsについては、現在庁内で研究を行っており、総合戦略ではなく最上位にある総合計画とSDGsの取組との関係性を整理している。整理がついた際には江別市がどのような活動をSDGsと結びつけて行うかを検討して進めていきたいと考えている。

○澤井座長

懇談会や座談会の参加者はどのくらいなのか。また、参加者はどのような方法で募集したのか。

○事務局

子育て世帯の懇談会は、乳幼児と小中学生の保護者の意見を聞きたかった。乳幼児の保護者は市内幼稚園のPTA連合会から声をかけていただいて10名程度、小中学生の保護者はPTAの連合会の役員を中心に10名程度集まっていた。

大学生については、学生地域定着の「ジモ×ガク」という事業に登録している学生に声をかけ10名程度集まっていた。

議事（3）その他
【質疑なし】

3 その他
【質疑なし】

4 閉会